

研究主題「キャリア教育における『自己理解・自己管理能力』を高める指導

－肢体不自由特別支援学校における『キャリア・コネクト』の活用による 指導の充実－

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
都立墨東特別支援学校 主任教諭 武田 圭

第1 研究のねらい

肢体不自由のある児童・生徒は、「日常生活動作や行動上に困難や制限があるため、社会経験が不足しがち」（文部科学省HP）になることが指摘されている。こうした経験から学ぶ社会性や人間関係の形成能力、また将来の自立に必要な資質・能力の育成を行うためには、計画的・組織的なキャリア教育の充実が必要不可欠である。

キャリア教育を進めるに当たり、二つの課題がある。第一の課題は、キャリア教育に対する教員の意識である。平成29年度都立特別支援学校教育課程の編成状況によると、全69校の内68校が「キャリア教育・職業教育の充実」を目標事項に挙げているにもかかわらず、小学部において「自らの生き方（・在り方）を考える指導」を扱っている学校は約40%にとどまっており、中学部64%、高等部82%と比べると低い結果であった。このことから、小学部から児童の将来を見据え、計画的・組織的にキャリア教育に取り組むよう教員の意識を高めていく必要がある。

第二の課題は、教員と外部専門家との連携である。理学療法士をはじめとする外部専門家が指導に加わり、教員との協働を通して児童の力を最大限高めることが期待されている。特に肢体不自由のある児童・生徒は身体的機能の制約により、日常生活において自己の力を発揮するには専門的な支援が必要とされる。そこで、児童・生徒が授業を含めた全教育活動に対して主体的に取り組み、成功体験の中から自己の生き方を考えていくためには、教員と外部専門家が密に連携し、きめ細かい指導を継続的に行うことが大切であり、この営みが教育活動全体を通じたキャリア教育の実現につながる。

そこで本研究では、キャリア教育に対する教員の意識を高めると同時に、外部専門家との連携を強化することで、児童の集団における自己の役割や可能性についての認識、「自己理解・自己管理能力」を高めることをねらいとする。そのための方法として、独自に開発したツール「キャリア・コネクト」を活用し、効果について検証する。

第2 研究仮説

「キャリア・コネクト」の活用によって、教員が自身の授業にキャリア教育の視点をもつことや外部専門家との連携が強化されることで、教育活動全体を通じたキャリア教育が実現するだろう。その結果、児童は授業において成功体験を重ね、基礎的・汎用的能力の一つである「自己理解・自己管理能力」を高めることができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) キャリア教育推進における課題について

都立特別支援学校教育課程の編成状況調査（平成29年度）によると、小学部において「進路指導の内容として特に重視していること」で、「自らの生き方（・在り方）を考える指導」を挙げた学校は約40%であった。この数値は、中学部や高等部と比較すると低いことから、小学部

の段階から、児童が自分自身について考えたり、自己決定する能力を高めたりする取組が必要であると考えた。

(2) キャリア教育の視点による教育課程及び授業の改善・充実に図るためのツールについて

知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」の活用方策の一つとして、教育課程の分析及び改善を目的とした「単元における観点位置付けシート」、授業の充実・改善を目的とした「授業における観点位置付け・授業改善シート」が開発されている。このツールから、活用における教員の負担感を軽減するための工夫が必要であると考えた。

(3) 外部専門家との連携について

東京都教育委員会では、平成 23 年度より、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士といった外部専門家を学校現場に導入し、教員の専門性の向上と協働による指導体制の構築に取り組んでいる。教育活動に携わる専門家がそれぞれの専門性を発揮することで、個に応じたきめ細かい指導の充実に図っている。

2 調査研究

(1) 調査の概要

都立肢体不自由特別支援学校に勤務する教員（主幹教諭・指導教諭・主任教諭・教諭）を対象に、「キャリア教育」と「外部専門家との連携」に関する意識調査を行った。（都立肢体不自由特別支援学校全 18 校 有効回答数 615 人）

(2) キャリア教育に関する質問結果の分析

・ 「担当している児童・生徒にキャリア教育は必要である」という質問では、86%の教員が「当てはまる」、「だいたい当てはまる」と回答した。一方で、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」と回答した教員が、どの教育課程においても一定数いた（図 1）。

・ 「キャリア教育を意識して授業や活動を行っている」という質問では、肯定的な回答は 67%にとどまった。

・ 「キャリア教育の全体計画を意識している」という質問では、肯定的な回答は 57%にとどまった。

以上から、キャリア教育を更に進めるためには、

①全ての教員に対キャリアして教育の必要性に関する意識を高めることが必要である。

②キャリア教育の視点で自己の授業を整理するための工夫が必要である。
と分析した。

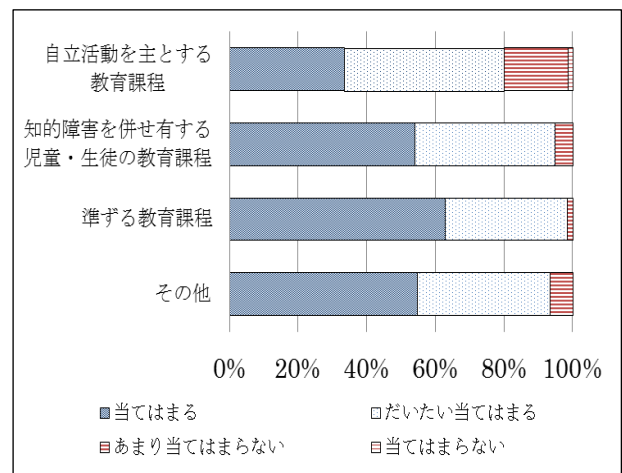


図 1 キャリア教育の必要性に関する調査結果
（教員が担当している教育課程別による分析）

(3) 外部専門家との連携に関する質問結果の分析

外部専門家と「連携をしたことがある」と回答した教員 554 人を分析対象とした。

・ 「外部専門家の指導や助言の有益性」に関する質問では、96%の教員が肯定的な回答をした。

・ 「外部専門家との更なる連携において効果的だと思う項目」について、教員 615 人の回答

を分析した結果、最も多く挙げられたのは「日常生活における児童・生徒の課題の共有」であった（図2）。

以上から、外部専門家との連携を強化するためには、「児童・生徒の日常生活の課題について、教員と外部専門家が共通認識をもつことが必要である」と分析した。

3 開発研究

(1) 「キャリア・コネクト」の開発

調査研究から得られた方策を基に、①キャリア教育の視点を踏まえた学習指導案（略案）作成と②外部専門家との連携の二つの機能をもたせた電子媒体ツール「キャリア・コネクト」を開発した。

学習指導案（略案）作成機能では、教員が授業におけるキャリア教育の観点を意識できるようにするため、目標に対してキャリア教育で育てたい四つの能力「基礎的・汎用的能力」を選択するようにした。

また、「キャリア・コネクト」内で作成された学習指導案（略案）は、後に「学習の分析」として、評価することができるようにした。

外部専門家との連携機能においては、児童・生徒の日常生活や授業における目標を記入する欄を作成することで、担任と外部専門家が効果的に情報共有を図ることができるようにした。担任や外部専門家が記入する欄においては、文章に加えて活動の様子を撮影した映像や教材の写真等も添付できるようにした（図3）。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要（平成30年10月3日から12月5日までの期間において計16時間実施）

都立肢体不自由特別支援学校小学部第4・5・6学年に在籍する8人の児童を対象に、特別活動において当番や係活動を行う検証授業を実施した。

(2) 検証授業におけるキャリア・コネクトの活用

キャリア・コネクトを活用し、検証授業における毎時間の学習指導略案を作成した。また、児童AとBに対しては、8時間目から外部専門家との連携機能を用いて理学療法士・作業療法士それぞれ1人に指導・助言を求めた。

(3) 検証結果

ア 学習指導案作成（略案）機能における教員の意識変化

検証授業で協力を得られた教員2人に対して、学習指導案（略案）作成機能に関するアンケート調査を行った。その結果、2人から「キャリア教育の全体計画の活用」において、肯

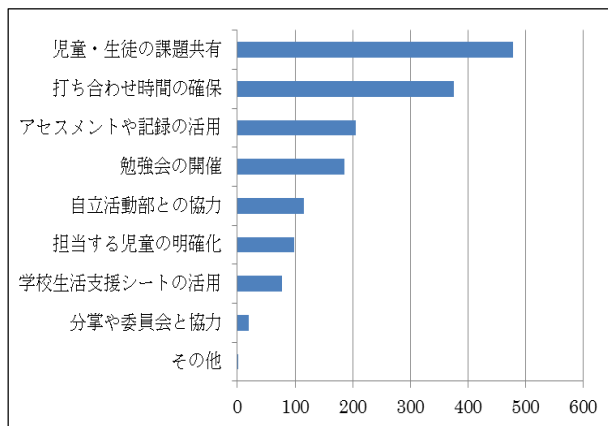


図2 外部専門家との更なる連携を目指した方策の結果



図3 外部専門家との連携画面の例

定的な回答を得ることができた。

イ 外部専門家との連携機能に関する調査結果

検証授業で協力を得られた教員と外部専門家の4人を対象に、連携機能に関するアンケート調査を行った。その結果、4人から「児童の日常生活における課題の共有」に関して、肯定的な回答を得ることができた。

ウ 児童の自己評価結果

検証授業対象の学習グループ全児童8人に対して、自尊感情アセスメントを実施した。自尊感情アセスメントは、平成23年度に東京都教育委員会が作成したものを使用した。検証授業の前後の学級平均点を算出し比較したところ、「自己評価・自己受容」、「関係の中での自己」、「自己主張・自己決定」の全ての項目において平均点が向上した。また、外部専門家からの助言を基に教材等の改善を行った児童Aに関しては、三つのカテゴリーにおいて、0.5ポイント以上の点数の向上が見られた。また、児童Bに関しては、「関係の中での自己」、「自己主張・自己決定」の点数が下がったが、「自己評価・自己受容」の平均点においては、0.5ポイント以上の点数の向上が見られた（表1）。

表1 事前・事後学習における自尊感情アセスメントの結果

児童	自己評価・自己受容		関係の中での自己		自己主張・自己決定	
	授業前 10月3日	授業後 12月5日	授業前 10月3日	授業後 12月5日	授業前 10月3日	授業後 12月5日
A	3.43	4.00	2.43	3.43	2.14	3.71
B	2.94	3.83	3.71	3.60	3.86	3.67
学級平均	3.42	3.68	3.09	3.61	3.27	3.62

(各カテゴリーにおける最高点は4.00、最低点は1.00)

エ 教員による他者評価結果より

検証授業の前後における児童の行動変容を明らかにするために、他者評価アセスメントを実施した。他者評価アセスメントは、平成23年度に東京都教育委員会が作成したものを使用した。検証授業の前後の平均点を算出し比較したところ、全てのカテゴリーにおいて平均点が向上したが、特に「人への働きかけ」では4人、「友達との関係」では7人が0.5ポイント以上の点数の向上が見られた。

第4 研究の成果

「キャリア・コネクト」の活用によって、授業におけるキャリア教育の視点をもつことができたり、外部専門家からの指導・助言を授業に生かしたりすることにより、児童の自尊感情を高めることができた。このことから、「キャリア・コネクト」の活用は、教員のキャリア教育に対する意識の向上のみならず、外部専門家との情報共有や連携の強化につながる効果的な方法であると言える。

第5 今後の課題

特別支援学校だけではなく、他の校種においても活用しやすくなるよう「キャリア・コネクト」の仕様を見直していく。また、「キャリア・コネクト」を活用した事例の蓄積を行い、児童・生徒の「基礎的・汎用的能力」を高めることを通して、効果的にキャリア発達を促すことができるか検証していく。